

# 昭和52年度学会財政の見通しについて

## 会計委員会

昭和52年度の学会財政の運営は、51年度の会費外収入の増収が寄与したため、ほぼ順調に推移する見込みである。

しかしながら、印刷経費および人件費等の増大を考慮すると健全な運営を遂行するためには、事務費、通信費、会議費などの経常経費の節約に努力する必要がある。

一方、今年度は昨年度の理事会で決定をみた、気象教育と普及委員会の発足の趣旨に沿い、夏季大学の充実や天気誌上での普及講座の充実を図る必要がある。また定期刊行物である気象集誌、天気、気象研究ノートの内容を財政の許す範囲で充実させる必要もある。

以上の点につき当委員会では各部担当理事と緊密な連絡をとりつつ、以下に示す予算原案を作成した。

本原案は本年5月に開催が予定される全国理事会に提出されるもので、昨年10月の名古屋大会における全国理事会（第1次案）および本年2月28日に開催された常任理事会で審議・了承されたものである。項目別に予算の収支の概要を記すと次のようになる。

### 1. 収入の部

#### (1) 会費 (2091万円)

上記は、本年2月1日現在の会員数を基礎にして本年度（昭和51年度）の会費で収入を求めたものである。その結果は本年度の会費に対し、約27万円の増となる。

本年2月1日現在の会員数は3587名で昨年4月1日現在の3436名と比較すると151名の増加となっている。

参考までに2月1日現在の種別会員数は次のとおりで（ ）内の数字は50年4月1日に対する増減を示している。

A : 1825 (+52), B : 1068 (+62), 学生 : 58 (-60),  
外国在住 : 118 (+31), 団体 : 485 (+65), 賛助 : 33 (+1)。

#### (2) 事業収入 (2027万円)

事業収入金の主な内容は、Papers および書店向けの集誌、天気、気象研究ノート、夏季大学講座テキスト等の販売収入および別刷代、投稿料、広告代等を含めたものである。

昭和52年度予算では在庫圖書の販売および投稿料の昨

年度と同額の収入を見込んで昨年度予算額より約400万円多い表記金額を計上した。

なお投稿料は昨年度の規約改定により1~12頁迄は頁当たり3000円、13頁以上は1頁増す毎に9000円を投稿者に御願している。

#### (3) 文部省助成金 (150万円)

気象集誌の発行に対し文部省より補助されるもので51年度は50年度の112万円より38万円多い150万円が認められており、52年度は予算のうえでは51年度と同じ額を計上した。

### 2. 支出の部

#### (1) 気象集誌、天気の印刷編集 (1640万円)

当学会では機関紙として、集誌、天気を定期的に刊行している。これら機関紙の印刷経費は業者の協力によりここ2年間据え置かれたが来年度は物価および人件費の上昇が見込まれる。当委員会ではさきに業者と交渉を重ねた結果、本年度に比較し約1割の増額を認めざるを得なかった。この結果、両機関紙の印刷費は集誌555万、天気1085万で計1640万円となる。

上記金額は、全会費収入の78%に相当し団体および賛助会員を除く通常会員の会費1508万円では運営できない額に相当しており、不足額は事業収入および賛助会費等に頼らざるを得ない現状にある。

編集費は交通費の増加および人件費の増加等を考慮し、一方機関紙の内容の充実を計る目的より天気30万円、集誌6万円を増額した。

#### (2) 発送・通信費 (432万円)

発送に要する郵便料金は52年度も据え置きが予想されるので、本年度とほぼ同額を計上し、さらに一般通信費を節約し、合計では昨年度より110万円少ない432万円を計上した。

#### (3) 会議費 (90万円)

地方大会費用は従来30万円が計上されていたが地方理事からの要望もあり40万円とした。また52年度は教育普及委員会の発足により同委員会々議費として1万円を計上したほかは、本年度に準じて90万円を計上した。

#### (4) 学会賞、藤原賞 (14万円)

本年度と同額の1件当たり7万円とした。

## (5) 奨励金、支部交付金 (115万円)

ともに本年度と同額の据え置きとし、支部交付金は7万円+(350円×会員数)に準拠した。

## (6) 事務費 (675万円)

事務費は学会事務職員2名の給与、物品・印刷費、および社会保険事業主負担金等を含んだ額である。事務の合理化・簡素化については庶務・会計委員会で検討中であるが人件費については52年度の公務員のベースアップを勘案して、10%増を計上した。

## (7) 旅 費 (37万円)

昭和52年度の秋季大会は札幌開催が予定されており、庶務・会計、講演企画、奨励金各理事および事務職員1名の往復旅費が必要となる。この他学会費・藤原賞選考委員会旅費が含まれて計上されている。

以上昭和52年度の学会予算案のあらましを記したが総

額で収入5500万円に対し同額の支出が予算案に盛り込まれている。なお本予算案では翌年度(昭和53年度)への前納会費1075万円のほか297万円の繰越金を見込むことができる。この額は会費の約14%に相当するので53年度は物価その他が若干上昇するとしても53年1月よりの会費(52年末に前納する会費)は据え置くことが可能と考えられる。

上記した昭和52年度の学会財政の見通しに関し御意見ある会員は下記会計担当理事に御連絡下さい。

担当理事

杉 本 豊 東京都千代田区大手町 1-3-4  
気象庁予報課

立 平 良 三 同 上

## ==== 会員の広場 =====

### “天気”編集についての意見 (J.K. 生)

“天気”を毎度読ませていただいておりますが、編集について2、3意見を申し述べます。

多分、紙面のむだをはぶく目的からと思いますが、よく「〇〇ページへつづく」として離れたページへ内容が飛ぶのを見かけます。

これは読みにくく、かえってむだをつくっているかもしれない。

このような点を改良し、読みやすくするために、次のことを提案します。いかがなものでしょうか。

(1) 他のページに飛んで1行ぐらいで終わる場合は、その分だけ著者に連絡して原稿を短縮してもらおう。

(2) 短報・用語解説等は、現在は常にページの1行目から始まっているが、ページの途中からでも始めるようにする。

(3) あまりきっちり埋まっていると雑誌の体裁をそこなおそれがあるので、少しぐらいの空白部はあってよいのではないか。

(4) うえのこと以上に気になるのは図の大きさである。図の内容が複雑な場合は別だが、必要以上に大きな仕上りになっている図も見うけられる。このような場合は、原図を肉太の線に書き直してもらって、少し小さい仕上りにする方が体裁もよいし、紙面の節約にもなる。

編集にお骨折りいただいている委員の皆様には何かと大変なことと思いますが、以上感じたことを述べさせて

いただきました。

#### J.K. 氏のご意見に関連して (編集委員会)

ご意見については、委員会で検討して善処すればよいわけですが、投稿者・読者一般にも関係することですので、J.K. 氏の了解を得て、要点を掲載いたしました。

ご指摘の点について、一応編集の状況や、過去のいきさつを述べますと、(1)、(2)の、ページが飛ぶ件については、数年前気象学会の財政が悪化した際、少しでも有効に紙面を使おうと始めたもので、編集上やむなくページを飛ばせています。しかし記事によって一応優先順位を付けており、解説・論文・シンポジウム等は飛ばさないようにしています。(3)の空白が少ないのもその時以来です。(1)の原稿を短縮してページ内に収める点は、“天気”の場合、発行日が定められていて、著者と連絡をとる余裕がない場合が多く、思うように行なえないのが現状です。(4)で指摘のあった図に関しては、投稿者自身の自覚に期待するところが大きいので、最近も「投稿論文の図の書き方について」(1976年11月号)を掲載して、注意を喚起しています。

ご指摘のありました点を含めて、会員の皆様の要望に応じて編集の仕方を改善してゆきたいと考えていますので、ご意見・ご要望がありましたら、何なりと編集委員会宛にお寄せ下さい。